

財政学B		准教授 小松原 崇史	
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの専門 選択科目, 会計ファイナン スコースの専門選択科目, 経営・経済コースの専門選 択科目, 教職科目	科目ナンバリング	23222206 25320220

1. 授業のねらい・概要

本科目では、財政学Aに続いて、財政に関する問題について検討します。特に、税制に焦点を当て、経済学的な視点から、経済への影響を分析します。本科目の履修にあたっては、「財政学A」、「経済学基礎」及び「ミクロ経済学」を履修済みであることが望ましいです。

2. 授業の進め方

講義形式で授業を行います。適宜プリントを配布し、理解をはかります。以下の授業計画は、理解度に応じて変更する可能性があります。

3. 授業計画

1. はじめに 2. 税のしくみ 3. これからの社会と税 4. 納税の義務 5. 税の歴史 6. 前半のまとめと復習 7. 税と公平（応益原則） 8. 税と公平（応能原則）	9. 税と公平（税の帰着と税の公平） 10. 貧困を減らすための政策（最低賃金法） 11. 貧困を減らすための政策（生活保護） 12. 貧困を減らすための政策（負の所得税） 13. 貧困を減らすための政策（現物給付） 14. 貧困を減らすための政策（反貧困政策と労働意欲） 15. 後半のまとめと復習
--	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講後、その回の内容を復習してください。そのためには、毎週1, 2時間程度が必要です。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

問題の解答を、試験終了後に掲示します。

6. 授業における学修の到達目標

目標は、税制を経済学的な視点から、理解できるようになることです。

7. 成績評価の方法・基準

期末試験（100%）によって、成績を評価します。

8. テキスト・参考文献

参考書として、N・グレゴリー・マンキュー著『マンキュー経済学 I ミクロ編（第4版）』（東洋経済新報社、2019年）を使用します。

9. 受講上の留意事項

私語を厳禁とします。守れない学生に対しては、直接注意を行い、改善が見られない場合には退出を求めます。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。